

第6回安曇野市誌編さん委員会 会議概要

1	会議名	第6回安曇野市誌編さん委員会
2	日 時	令和7年1月16日(木) 午前10時00分から11時30分まで
3	会 場	安曇野市役所本庁舎 共用会議室305
4	出席者	原明芳委員、倉石あつ子委員、笹本正治委員、青木隆幸委員、堀金猛委員、丸山隆委員、
5	欠席者	梅干野成央委員、宮崎崇徳委員
6	市側出席者	橋渡教育長、三澤課長、事務局、逸見係長、児玉副主幹、平沢館長
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 記者 0人
9	会議概要作成年月日	令和7年1月20日
会 議 事 項 等		
○会議の概要		
1	開会	(三澤課長)
2	あいさつ	(橋渡教育長)
3	自己紹介	(委員・事務局)
4	協議	
(1)	民俗部会の進捗状況について	
	(事務局説明)	
	(委員)	各部会で「書ける」人材を初めに決めておいて市誌の全体像が分かるようにしてほしい。 そのうえで横断的な連絡・調整ができる市誌編さん委員会を毎年数回ずつ開催するよう体制を作ってほしい。
	(委員)	事務局である準備室がないことが事業の進まない一番のネック。早く組織化してほしい。
	(委員)	早急に編さん室を作って仕事ができるようにしてほしい。
	(委員)	民俗資料編で欠員により口頭伝承が他の項目に吸収となっているが、「方言」は大切なので項目として大きく取り上げてほしい。
(2)	考古(原始・古代)部会の進捗状況について	
	(事務局説明)	
	(委員)	発掘結果は場合により古代・中世・近代に全てに重なるのでその辺をどのように扱うか議論がなされていない。 編さん委員会はそういった調整をしていかなければならない。
	(事務局)	考古部会の執筆者については原始古代のみならず中世を専門とされている方もいるため、今後中世・近世を考えていくときにご協力いただくことは考える。
	(委員)	全体像の中できちんと論議ができる体制を作っていただきたい。 民俗・歴史・自然の重複する部分、あるいは歴史の中でも考古・中世・近代といった時代を超えた内容の論議がされることで旧町村誌にはない視点の新しい『安曇野市誌』ができるのではないかと。
	(委員)	現在立ち上がっていない部会の発足時期のめどはいつか。
	(事務局)	自然部会はこの後説明する。 中近世部会、近現代部会については、めどが立っていない。事務局の体制強化を図ったうえで発足に向けて進めるしかない。

(委員長)

本日もいただいた意見を基に全体構想の見直しを事務局にお願いしたい。

(委員)

私は民俗編とは現代史の一部分、社会学の一部分という側面があると思う。

そうすると、現代史の位置づけの仕方によって、全く違ってくるはずだ。考古・歴史・民俗との区切られた発想法ではもう前に行けないだろうと考える。

本誌における民俗編の特徴はどこにあって、それは市誌全体の中でどういう意味を持っているのか。

考古編の位置付けもして、従来の発想法だけでない新しい市誌を作ることを高らかにうたっていただきたい。

(委員)

コンセプトについて、経験上、北アルプスを代表とする安曇野の自然や景観、文学、歴史について設定を見直し一般の人の言葉が記録されて読めるようにしておくとか、地域の皆さんがどういうものを求めているかを時間かけて考えていくのも良いのではないかと考える。

(委員)

市誌編さんを通して若手研究者をどう育てるかについて。市誌の執筆に携わることは、執筆者がいろんな経験を積むことになるので、それはとても大事だと思う。ただ、刊行が令和 13 年だとすると、今の中学生がもう既に成人してる。その子たちが関心を持つとか、もう 10 歳上の方々が関わるとか、何かそういうシステムがないのかなと考える。

過去に私が下伊那にいた際、協議会があってその専門的な委員会に関わることで教職員の若手を育てている例もある。執筆しなくてもそこに関わらなくても少し成長できるのではないかな。

せっかくこのように安曇野市全体の市誌をつくるということを大きくやっていくならば、そういった考えを反映させる必要もあると思う。

次に市誌を改訂することも見越して人を育てていく視点も入れておいた方が良いのではないかな。

(委員)

若い人の推薦をお願いしたい。

(委員)

現場の先生たちが出てこない状態だ。やはり人数も少ないこともあるし、執筆の仕事を受けることで自分の学校現場での仕事はどうなるか不安もある。結局推薦だと 60 歳代の人に押し付けになってしまう。

地域のサポートが必要ではないかな。

(委員)

まず、市誌編さんについて現場に周知していない。強制的にやらせるのではなく、やってみませんかと呼びかけることで「自分だったらできるかもしれない」と手を挙げてもらえる可能性もある。

現在学校の現場の仕事でさえ「お願いします」ということに対して抵抗感が非常に大きい部分もあるので、そういう工夫も必要なのかなと思う。

(委員長)

こども編を作ることも見越してどのように関わってもらえるか事務局に考えてもらいたい。

(3) 自然部会の発足について

(事務局説明)

(委員)

自然部会は現状における自然しか書かないことがほとんどだ。

中世を執筆する人にとっては、どういった舞台の上に歴史が作られるかということが重要になってくる。

例えば近世の用水堰ができる前と後では、動物などにどのぐらいの差が出てくる可能性があるか、あるいは発掘調査の花粉分析によって植生がどのぐらい変わっているか。できたら、自然部会の皆さんに時代の特色のあるところを少し書いていただけるように希望する。

中世と近世では開発の状況によって、植生も動物もずいぶん変わってきている。

特にこのところ、地球温暖化等の影響もあるため従来と少しずつ変えながら、歴史の舞台たる自然に関して思いが寄せられるよう、事務局の方で調整してほしい。

(委員)

地球の温暖化気候変動の関係で今まで 100 年ぐらいであったような変化が、例えば昆虫とか植物でも、5 年と

か10年で変わってきている。

そういうことを踏まえて、これから調査結果によっては、ある時代を切っただけではなくて、アップデートできるような方法があればしていきたい。

(委員)

考古部会の人たちも今の視点を意識してもらい、植生とか動物昆虫のあり方と、人々の営みは非常に密接な関係があるので、場合によっては花粉分析や土壌分析をきちんとやっていただいて、私どもが書かなければいけない舞台が見えるようにしてほしい。

(委員)

自然や安曇野の人々に今起こっていることなど、市民の人たちが関心を持つような記述を増やすことを構想に盛り込んでもらいたい。

(4) その他

(委員)

建築物やその仏像等の悉皆調査をしているので各部会の方にその状況、あるいは部会員の皆さんと意見交換ができる体制を作してほしい。

例えば建築に関して古い家があっただけでなく、使用されている部材によっては社会の状況も見えてくるはずなので分野を超えた視点で執筆できようにしてほしい。

(委員)

編さん委員会ははじめ部会員への女性の登用を考えてほしい。

(委員)

専門家だけでなく読む側も前提に、意見を聞くだけでもいいから将来を担う高校生など、男女も含めた構成比を考えてほしい。

5 その他

特になし

6 閉 会 (11 : 30)